

慈覚大師円仁誕生地 紫雲山 壬生寺

壬生寺霊園 新墓地のご案内



道路もきれいに整備された閑静な住宅地の近くにあります。

保育園も併設されているのでいつも子どもたちの笑い声が聞こえる穏やかな環境です。

交通の便もよく（壬生駅から徒歩15分、壬生インターから車で10分、国道352号沿い）足を運びやすい条件で、霊園内はバリアフリーとなっています。

【永代供養塔 紫雲殿】



紫雲殿は、お墓の承継者の有無にかかわらず、永代にわたり管理、供養が受けられるお墓です。

従来のお墓は、「家」を単位として、代々受け継がれることが前提でした。

しかし、現代では、少子化や核家族化が進み、また、居住地も同じ場所に留まる割合が減るなど、代々お墓を受け継いでいくことが難しくなっています。

紫雲殿は、このようなお墓の問題を解消する新しいお墓のスタイルとして、近年、広まりつつあります。

ご希望の方はお問い合わせください

壬生寺 0282-82-0811



墓地規格

(間口) (奥行)

- ① 180 × 210 全南向き
- ② 180 × 180 東・西・南向き
- ③ 150 × 150 東・西・南向き
- ④ 120 × 120 東向き

ご案内



壬生寺霊園 新墓地のご案内

慈覚大師円仁誕生地

紫雲山 壬生寺



【壬生寺本堂】



【慈覚大師堂】

当山は古来より慈覚大師円仁の誕生した聖跡として広く世に知られている。

江戸時代の貞享三年(1686年)日光山輪王寺の門跡天真親王が日光への道すがら、慈覚大師の旧蹟が荒廃しているのを嘆き、時の壬生城主三浦尓岐守直次に命じて、大師堂を建立したのが今の朱塗りのお堂です。大正二年(1913年)大師一千五十年遠忌には、輪王寺門跡彦坂大僧正の元に、壬生町信徒報恩会を組織し、大師堂の側に東京上野の寛永寺天台宗学問所(旧勸学寮)を本堂として移建し、大正五年新たに壬生寺を創立した。

平成25年秋に「平成の大改修」を終える。

【慈覚大師円仁】

794年(延暦13年)下野国都賀郡壬生町(現在の壬生寺)に豪族壬生氏の子として生まれる。15歳のとき比叡山に向かい、宗祖最澄に師事する。

性格は円満にして温雅、眉の太い人であったといわれる。最後の遣唐使として留学した円仁は、9年6ヶ月に及ぶ求法の旅の間書き綴った日記『入唐求法巡礼行記』を残した。これは日本人による最初の本格的旅行記であり、歴史資料としても高く評価されている(エドウィン・ライシャワーの研究により欧米でも知られるようになる)。日本では清和天皇の貞観8年(866)7月、最澄に「伝教」、円仁に「慈覚」の大師号が初めて贈られた。



【慈覚大師円仁座像】

壬生寺

栃木県下都賀郡壬生町大師町11-17
TEL 0282-82-0811 FAX 0282-82-8575
HP <http://www.jikakudaishi.com/>
メール jikakudaishi@orion.ocn.ne.jp

詳細は直接おたずね下さい。
資料をお送り致します。

指定石材店

中村石材・石のますぶち